

2014年秋期(第155回)講演大会記録

2014年秋期講演大会は、9月24日から26日の期間、名古屋大学東山キャンパスにおいて開催した。講演発表件数は960題、大会参加者は1496名であった。

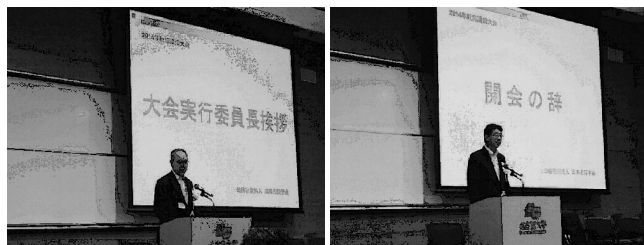
- 9月24日(9:00~9:40) 開会の辞、各賞贈呈式(IB電子情報館IB大講義室)
- (10:00~17:00) 一般講演、シンポジウム講演、受賞講演、共同セッション(全学教育棟 16会場)
- (12:30~17:00) ポスターセッション(豊田講堂)
- (18:30~20:30) 懇親会(ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋「ザ・グランコート」)
- 9月25日(9:00~18:00) 一般講演、シンポジウム講演、受賞講演、共同セッション(全学教育棟 20会場)
- 9月26日(9:00~17:10) 一般講演、シンポジウム講演、受賞講演、共同セッション(全学教育棟 18会場)
- 9月24日~9月26日 総合受付(全学教育棟 学生ホール)
付設機器・カタログ展示会、World Materials Day Award 展示(全学教育棟 学生ホール)

開会の辞(9月24日)

金武直幸実行委員長より開会の挨拶があった。

贈呈式(9月24日)

各種贈呈の前に、新家光雄会長の式辞があり、続いて下記の通り贈呈があった。



第12回学術貢献賞贈呈式 11名に対し賞状贈呈。(受賞者;本誌503頁-504頁)

第37回技術開発賞贈呈式 8件38名に対し賞状ならびに賞牌贈呈。(受賞者;本誌505頁-506頁)

第12回功労賞贈呈式 2名(学術部門2名)に対し賞状贈呈。(受賞者;本誌507頁)

第24回奨励賞贈呈式 5名(物性部門1名、組織部門1名、材料化学部門1名、材料プロセッシング部門1名、工業材料部門1名)に対し賞状ならびに賞牌贈呈。(受賞者;本誌507頁-508頁)

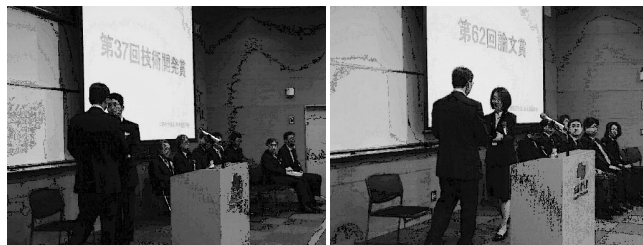
第4回まてりあ論文賞 1編1名、第4回まてりあ啓発・教育賞 1編1名に対し賞状贈呈。(受賞者;本誌508頁)

第11回村上記念賞贈呈式 1名に対し賞状ならびに賞牌贈呈。(受賞者;本誌509頁)

第11回村上奨励賞贈呈式 4名に対し賞状ならびに賞金贈呈。(受賞者;本誌509頁)

第62回論文賞贈呈式 7編23名(物性部門1編、組織部門1編、力学特性1編、材料化学部門1編、材料プロセッシング部門1編、工業材料部門2編)に対し賞状ならびに賞牌贈呈。(受賞者;本誌510頁-512頁)

第21回若手講演論文賞贈呈式 3編3名に対し賞状贈呈。(受賞者;本誌512頁)



ご受賞おめでとうございます!!

懇親会(9月24日)

ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋(名古屋市中区金山町1-1-1)において日本鉄鋼協会と合同で開催した(参加者は214名、本会への申込者・招待者97名)。

司会 名古屋工業大学教授 小坂井孝生
開会の辞・大会実行委員長挨拶 名古屋大学教授 金武直幸
来賓挨拶 名古屋大学副総長・教授 鈴置保雄
日本金属学会会長挨拶 東北大学金属材料研究所教授 新家光雄
日本鉄鋼協会会長挨拶・乾杯 東京工業大学教授 加藤雅治
閉会の辞 名古屋大学教授 副実行委員長 藤澤敏治



乾杯!!

学術講演会(9月24日~26日)

最終講演件数960件

公募シンポジウム講演7テーマ166題(学術貢献賞受賞講演1題、奨励賞受賞講演1題、基調講演50題含む)

一般講演603題(奨励賞受賞講演4題、技術開発賞受賞講演7題、功労賞受賞講演2題、学術貢献賞受賞講演9題、村上奨励賞受賞講演4題、村上記念賞受賞講演1題含む)

共同セッション15題

ポスターセッション176題

欠講2件(講演番号:一般講演 No. 540, ポスター No. P160)

講演会場 20会場

第23回ポスターセッション(9月24日)

9月24日12:30~17:00の時間に豊田講堂で176件のポスター発表が行われ、そのうち優秀ポスター賞にエントリーおよび審査対象となっている165件の内容・発表について審査が行われた。秋期講演大会では2011年の沖縄大会をのぞいて、過去最高のポスター発表件数であった。

発表は二部構成で行い、一般講演は午前中で終了であったため、多くの聴講者がポスターセッション会場へ足を運んでいた。また、会場の豊田講堂は広々としており、発表者や多くの聴講者が窮屈なく会場を移動できた。

翌25日「優秀ポスター賞」21名が決定し、受賞者を総合受付に掲示した。



熱気あふれるポスター会場。

金属学会・鉄鋼協会共同セッション

「チタン・チタン合金」23題は9月24日、25日に鉄鋼協会第12会場で開催した。

「超微細粒組織制御の基礎」6題は9月26日に金属学会F会場で開催した。

付設機器・カタログ等展示会(第36回)

機器展示17社、カタログ展示3社から出展の協力を得た。各社のご厚意に感謝いたします。



託児室

9月24日(水)~26日(金)子供1名に対してシッター3名体制のもと支障なく終了した。

第12回 World Materials Day Award

材料系国際学協会連携組織である IOMMMS (International Organization of Materials, Metals and Minerals Societies) では、World Materials Day を制定し、本年2014年は、11月5日(水)に世界同時に、「材料に関する知識とその重要性を社会や若者に啓発する活動」に貢献があった学生を顕彰します。本会では、次の方が受賞されました。

第12回日本金属学会 World Materials Day Award 受賞者

(本誌; 513頁)

Winner

「ものづくり教室を通じて学ぶ科学の世界」

作者 茨城大学鋳造クラブ(茨城大学工学部機械工学科)

菅原篤史君

第1部門賞(2件)

「水素透過金属膜ってなに?」

作者 名古屋大学大学院工学研究科

鈴木飛鳥君 中村祐貴君 森本慎平君

「社会を支える鉄鋼材料の紹介と自己学習に有用なウェブコンテンツ “The Steel World Collection”」

作者 鈴鹿工業高等専門学校 専攻科 応用物質工学専攻

恒川弥佑君 松下和樹君

材料工学科 加納朱杜君 櫻林 薫君

【大会雑記】

名古屋大学での講演大会は2000年(平成12年)以来14年ぶりの開催であった。

大会自体に大きな混乱はなかったものの会期前半は大型台風接近の影響を受け、大会二日目の交通機関が一部乱れ、来場者のアクセスに影響があった。

講演は全学教育棟の20会場を使用した。同一の建物に会場が集約されていたため、会場移動はスムーズであった。共同開催した鉄鋼協会会場までは徒歩10分程度の距離があった。

名古屋大学での金属学会講演大会開催に当たって、実行委員の皆様には準備当初より長期にわたり、大変なご努力とご配慮を頂き、そのご尽力により大会を盛会裡に運営することができました。お忙しい中を本会のために長期間を割き、諸般について万端のご協力を頂いた実行委員の方々はじめアルバイト学生の皆様、大学関係者各位に対しまして、衷心より厚くお礼申し上げます。

次回、春期講演大会
は、東大駒場キャン
パスです!

